

# 平成 30 年度「自己評価報告書」

社会福祉法人愛護会  
たんぽぽ保育園

## 1、 保育目標

- 健康で明るい子ども
- 豊かな心を持つ子ども
- 自分のことは、自分でできる子ども
- 他人のことを考え、協力できる子ども
- 何故だろうと考え、物事に疑問を持つ子ども
- 自然に親しみ、愛することのできる子ども
- 人の話をしっかり聞き、自分の言葉で話せる子ども

## 2、 施設運営の重点課題

- 保育内容の充実
- 地域との交流の充実
- 郷土文化伝承の促進
- 地域の多様なニーズに合わせた子育て支援
- 風の子農園運営
- 保育園食育指導の充実
- 職員の資質向上

## 3、 評価項目と取組み状況

### 評価の基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

自己評価項目		評価	取組み状況
1	保育内容の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「たくましい子を育てる」保育について話し合い、計画・実行・反省を繰り返しながら保育を進めた。</li> <li>・一人ひとりの家庭環境や発達をしっかりと捉え保育に取り組んだ。</li> </ul>
2	地域との交流の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区 4 つの老人クラブ・自治会長・民生児童委員を保育園に及びして交流をした。3 つの老人入所施設には、5 歳児が出かけて交流した、</li> <li>・町内の千貫石公園に夏は、散策やヤギを見たり、冬はそりすべりをしたり、温泉に入ったりした。</li> </ul>

3	郷土文化伝承の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の昔から伝わる踊り「鬼剣舞」を保育に取り入れる</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児が9月の地区敬老会・運動会・福祉の森秋祭りで発表して、地域に貢献した。</li> </ul>
4	地域の多様なニーズに合わせた子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・父母の勤務状況や地域の子育て家庭のニーズに応え、様々な保育を行う。</li> <li>・町関係・専門機関との連携を密にしながら、よりよい子育て環境を提供していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延長保育・障がい児保育・一時保育・療育教室を行った。</li> <li>・町の保健師・療育教室・子育て支援センター・前沢明峰支援学校・サポートにじとの連携を図った。</li> </ul>
5	風の子農園運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風の子農園の身近な自然に触れながら、働くことを喜び、育てる喜び、食べ物に対する感謝の気持ちを育てる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の2つの畑に各年齢が野菜を育て、草取りや収穫する喜び、土を使つての泥だんごづくり、虫探しを楽しむ。自分たちで作ることで、食べる意欲につながった。</li> </ul>
6	保育園食育指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「食を営む力」を育むため、保護者・地域との連携を深め、食べることや命への関心を高め、子どもの健やかな心と身体の健全育成を促す。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の産直、農家の人との交流を通し、食べ物についての関心を高めた、文化祭では、「給食コーナー」の展示を行い、保護者、祖父母、地域の人たちに食育について啓蒙できた。</li> </ul>
7	職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民に信頼される保育実践と力量を持った保育者を目指す</li> <li>・外部講師による「子どもの脳の発達と身体リズム運動遊び」の学習をする</li> <li>・保護者と共に「たくましい子像」について学びあう。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の行事にお呼びして保育を見て頂くことで、保育力も向上している。</li> <li>・4園で、宮城学院大学教授「磯部裕子教授」の講義を2回受け、新保育所保育指針について学んだ。</li> <li>・保護者と共に子育てについて考える機会として、「保護者保育体験」を常に受け入れることで、職員の資質も高まった。</li> </ul>